



東小だより

やさしく かしく たくましい 東っ子

第12号

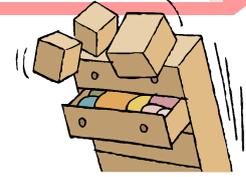
桐生市立東小学校

令和4年9月14日

(文責 鈴木 智行)



9月は防災月間



今年度、桐生市は県の学校安全総合支援事業の指定を受け、東小のほか3校をモデル校として防災教育の推進を図ることになりました。この事業における体験的な活動を通して、児童が命を守るために自分で考え行動できる力を高めることをねらいとしています。取組の一環として、先週(9/6)は「防災VR(地震)」、今週(9/14)は「地震体験車」を全校児童が体験しました。

防災VR体験

VRゴーグルを使って震度7の地震が起こったときの様子を体験しました。3分弱の動画で、教室と家庭の台所の2つの場面がありました。



<市教委担当者からの説明>



<VRのイメージ>

震度7の教室では机が激しく揺れ、窓ガラスが次々と割れて上から降りかかり、また、台所では頭上の棚から缶詰などが落ちてくる様子が映し出され、思わず頭を手で押さえる児童もいました。体験後、児童は「もし、この場に自分がいたらどのように行動するか」について振り返りました。直接体験が難しいことをVRという形で体験することができ、地震の怖さや非常時の行動などについて考えるきっかけになったと思います。



もし、この場に自分がいたらどのように行動するか」について振り返りました。直接体験が難しいことをVRという形で体験することができ、地震の怖さや非常時の行動などについて考えるきっかけになったと思います。



地震体験車

群馬県内に数台しかない「地震体験車」をお借りして、全校児童が震度5~7の強い揺れを体験しました。先週、VRで体験した光景を思い出しながら、「強い揺れの中で思った通りの行動が本当にできるのか」を確かめました。体験を通して突然、震度7の地震が起こった時、机の下に潜り込んだり、安全に避難したりすることは簡単ではないことを実感できました。



今月は避難訓練(予告なし)が予定されています。非常時であっても「自分で考えて行動できる」ようにするためには、地震や火災の時だけでなく、日常生活においても主体的・自主的に行動することが求められます(全校朝会で児童にも話しました)。そのため、教育活動全般を通して「自分の頭で考え、判断し、行動できる児童」の育成を図っていきたいと考えています。